

英文タイトルは
文頭以外は全て
小文字

明確で分かりやすいタイトルを心がける

長期徐放性キャリアを用いたフルバスタチン遠隔単回投与がインプラント周囲骨に与える影響

○東北 一郎, 関東 花子, 中部 二郎, 近畿 丸子, 沖縄 九州男
●●大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座

演者数: 研究報告⇒5名以下
他施設疫学調査⇒8名以下

演者氏名の英文は
全て大文字(半角)
で記載. 名字(姓)
は全て, 名前(名)
はイニシャル表記

The effect of single and remote injection of statin with sustained-release carrier for periimplant osteogenesis

日本語タイトルに対して忠実かつ整合性のとれた英語タイトルにする

○TOHOKU I, KANTO H, CHUBU J, KINKI M, OKINAWA K
Section of Removable Prosthodontics, Faculty of Dental Science, ●● University

句読点は全角, . とする
, 。 は不可

略称を用いる場合
は初出時に正式
名称を記載し()
内を略称とする

I 目的: スタチンは骨の形成を促進する薬物として注目され, これまでに局所投与によるインプラント周囲骨形成について様々な検討がなされている. しかし局所投与では, インプラント埋入に伴う出血により薬剤が希釈, 拡散するという問題があり, また, 拡散を抑えるためのキャリアを用いると, キャリアによるインプラント表面の汚染の可能性を考慮する必要がある. そこで本研究では, 乳酸・グリコール酸共重合体(PLGA)あるいはアテロコラーゲンをスタチン徐放化キャリアとし, インプラントから離れた部位に投与することにより, インプラント周囲骨に与える影響について検討した.

III 結果: 2週目において生理食塩水あるいはキャリアのみ(以下コントロール群)に比べ, スタチン投与群でより多くの骨の形成が見られた. 骨-インプラント接触率においても, スタチン投与群の方が有意に高かった. 4週間目においては, 骨梁の増大は見られるものの, 骨接触率には有意差は見られなかった. 血清生化学検査においては, 総コレステロール値はコントロール群と有意差を示さなかった. また肝障害, 腎障害, 筋障害の指標となるAST, ALT, クレアチニン, ALPもコントロール群と比較して有意差を示さなかった.

項目の内容が終了したら改行し, 文頭をそろえて次の項目を書き出す

II 材料および方法: ●●大学動物実験倫理委員会の承認を得た後雌性SDラット10週齢70頭の両側脛骨に円筒形のチタンインプラント(直径1mm×高さ1.5mm)を埋入した. ラットは, 生理食塩水, PLGA単体, アテロコラーゲン単体およびフルバスタチン(0.5mg/kgまたは1.0mg/kg)を封入したPLGA, フルバスタチン(0.5mg/kgまたは1.0mg/kg)とアテロコラーゲンの混合物の7群に分け, 背部に皮下注射した. 2週または4週後, インプラント周囲骨形成および骨-インプラント接触率を組織学的に検討した. また, フルバスタチンの効果と副作用を検討するために, 血清生化学的検査を行った.

IV 考察および結論: PLGAおよびアテロコラーゲンは薬物の長期徐放性キャリアとして有効であると考えられた. また, これらをキャリアとしてフルバスタチンを遠隔部位に注射投与すると, インプラント周囲に早期に骨形成を促すことが示唆された.

~~e-mail:jsot@jsot.co.jp~~

E-mailは記載しない

図表, 写真は掲載不可

原則的に参考文献は記載しない

動物実験, ヒトにおける研究の場合は, 倫理委員会の承認, 患者の同意について必ず記載

抄録の量は少なくとも
全文字数の70%以上
文字は1000字以内

抄録の形式-項目記載について 例(I 目的: スタチンは骨の…)

1. 文頭はローマ数字(ひらがな全角), ローマ数字の後はピリオドなし
2. スペースなしで目的と続く
3. 目的の後はスペースなしで:(コロン)と続き, 全角スペースを入れてから本文を記載
4. 以下, II 材料および方法: …, III 結果: …, IV 考察および結論: … と続く

英文タイトルは文頭以外は全て小文字

明確で分かりやすいタイトルを心がける

句読点は全角、.とする、。は不可

Split crest と骨移植によって上顎前歯部にインプラント治療を行った1症例

○坂東 太郎¹⁾, 北海 道郎¹⁾, 大阪 次郎²⁾, 中国 四国男²⁾, 北陸 三郎³⁾
大日本インプラント研究会¹⁾, 亜細亜インプラント研究所²⁾, 近畿・北陸支部³⁾

演者数: 症例報告⇒5名以下

所属は学会認定の研修施設名もしくは所属する学会支部名を記入する

演者氏名の英文は全て大文字(半角)で記載. 名字(姓)は全て, 名前(名)はイニシャル表記

A case report of a functional and aesthetic recovery with dental implants accompanying splitting the maxillary anterior alveolar crest and bone graft.

日本語タイトルに対して忠実かつ整合性のとれた英語タイトルにする

○BANDO T¹⁾, HOKKAI M¹⁾, OSAKA J²⁾, CHUGOKU S²⁾, HOKURIKU M³⁾
Dai-Nippon Implant Institute¹⁾, Asian Implant Academy²⁾, Kinki-Hokuriku Branch³⁾

当該部の補綴装置装着3年以上経過(明記)
治療終了してから3年以上経過(明記)

目的は明確かつ科学的に!!

I 目的: 上顎前歯欠損に対するインプラント治療では、唇側の骨量不足によって、機能的・審美的な回復が困難となる場合が多い。本症例では、上顎4前歯欠損に対して split crest による骨造成およびインプラント治療を行った結果、良好な機能・審美的回復を得たので報告する。

誤字・脱字に注意

症例報告の場合はII 症例の概要が望ましい

II 症例の概要: 患者は50歳女性。上顎前歯部Br.の違和感および下顎両側臼歯遊離端欠損に伴う咀嚼障害および審美障害を主訴に、2002年3月、東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント外来に来院した。う蝕、歯周病にて歯牙欠損に至り、長年放置されていた。既往歴には歯科治療恐怖症、高血圧症およびA型肝炎があった。顎位が安定せず、上顎残存前歯は歯周病によって動揺していた。2003年2月、口腔内写真、パノラマX線・CT撮影および診断用模型を作製し、インプラント補綴治療を行うこととした。最初に歯周病に罹患していた上顎前歯4本を抜歯し、可撤性部分床即時義歯を、さらに下顎欠損部に可撤性部分床義歯を装着し、顎位を安定させ、機能の回復をおこなった。2004年1月より下顎欠損部におけるインプラント治療を開始し、2004年5月に上部構造を装着した。そして同年9月、骨量の少ない上顎前歯欠損部に対して split crest を行い、上顎結節より採取した骨削片を crest 内へ填入した。骨造成部の状態をCTにより確

認し、2005年2月、前歯欠損部に Replace Select Tapered インプラント(φ3.5x13mm or 10mm)4本の埋入手術、および同年6月に2次手術を行った。同年9月には最終印象を行い、陶材焼付冠を仮着性セメントにて装着した。X線写真および口腔内写真を撮影後、治療終了とした。

III 経過: 2009年4月(3年半後)、口腔内に異常所見は確認されず、X線写真においても顕著な骨吸収像やインプラント周囲炎等の異常所見は観察されなかったことから、経過良好と判断した。患者は、機能的・審美的に十分満足している。

IV 考察および結論: 唇側の骨吸収が著しい上顎4前歯欠損においてインプラント補綴を行う場合、骨吸収に伴う歯列弓の直線化によって、インプラント補綴が困難となることが多い。本症例では臼歯部のインプラント補綴による顎位の安定と、骨造成をした上顎前歯部のインプラント補綴による審美的回復を得た。骨造成部位へのインプラント治療によって、造成した骨は維持されると考えられ、口腔機能および審美的維持が長期的に期待できる。今後も予後観察は必要と考える。

1. 症例の概要・経過・患者情報等を詳細に記載すること
2. 治療部位、使用機器、インプラントの種類・サイズ、補綴装置の概要等も詳細に記載すること

図表、写真は掲載不可

原則的に参考文献は記載しない

目的、症例の概要と整合性のとれた考察・結論とする。客観的な評価や分析が加味されるとさらに良い

抄録の形式一項目記載について 例(I 目的: 上顎前歯欠損に…)

1. 文頭はローマ数字(ひらがな全角), ローマ数字の後はピリオドなし
2. スペースなしで目的と続く
3. 目的の後はスペースなしで:(コロン)と続き, 全角スペースを入れてから本文を記載
4. 以下, II 症例の概要: …, III 結果: …, IV 考察および結論: … と続く

抄録の量は少なくとも全文字数の70%以上文字は1000字以内